



国で一番の
貴族が農民娘に
改変されちゃうお話

原作：なまおぎ
作画：かんむり
企画：あおあいおかし製作所

こんな不味い
飯が食えるか！



まったく…
料理のひとつも
ろくに作れないのか

もういい

俺は
部屋に戻る



はは…
はい…

もっ

申し訳
ございません
ルーク様!!



本当に使えない
連中ばかりだ

カリ
カリ



ガ
タ
ン



カリ

所詮は下層階級
貴族階級とは

キイ…

…ん？

誰だ

貴様…ここが
ヘレフォード家
当主の部屋だと
知っての狼藉か？



フ
フ
フ

もちろん知っているよ

だってその当主というのは

今日からこの僕のことなんだからね!

お前は一体

僕はいわゆる魔法使いってやつさ

俺!?

何年も何年も研究を重ね

一度だけ人の存在を改変する魔法を完成させた魔法使い

なっ!?

君の姿をしているのもその魔法というわけさ

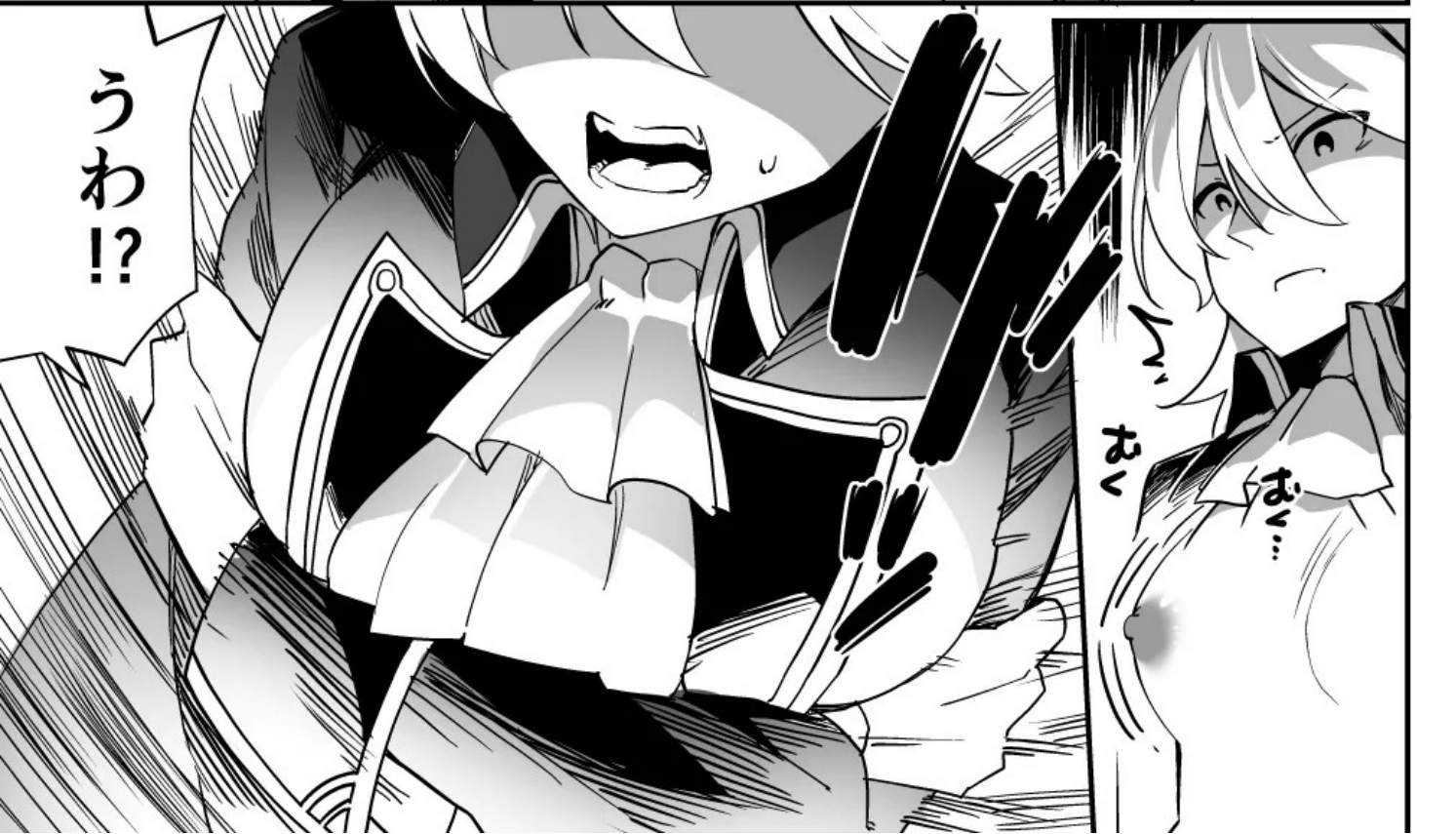
……ふん
馬鹿馬鹿しい!

存在を改変する魔法だと?

そんなもの易々と信じてとでも

まあ論より証拠だよ







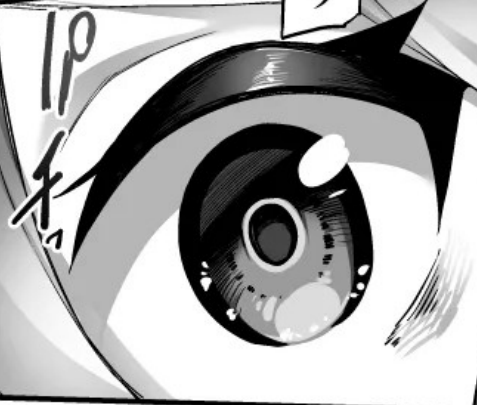
ゴゴゴ

あッ...

ぽんっ

ふあッ

あッ



IP

ム

パニ

ん

ん

!!

たっ たっ たっ たっ たっ

あッ...
ううっ...

!?

なんだこれ…
俺の身体が…

やた

はははっ
なかなか可愛らしく
なったね

貴様…俺に
何をした

なにして
見ればわかる
だろう

君の存在を
女性に改変して
みたんだよ

むに

ふざけるなよ!
こんな
下品な身体…

下品?

…ああ
貴族様たちの間だと
女性はスレンダーな方が
美しいんだっけ?

まあでも
安心しなよ

今の君だって
少し垢ぬけないけど
かわいいと思うから

うるさい!
今すぐ俺の身体を
元に戻せ!

下賤な輩が
貴族の俺にこんなこと
をして許されると
思っているのか!?

はいはい

じゃあこれから君も
そんな下賤な存在に
なってみようか



あぐっ!?

なんだ…!?
頭の中に何かが
流れ込んでくる…!!

君の過去も
書き変わって
いるんだよ



あがつ…

それが君だ



やめ…

そうだな…よし
今から君の名は
ソフィアだ



あああっ!?

さあ
『ソフィア』として
生きてきた
人生の記憶を君に

ソフィアは
農民出身だから

貴族さまとは
比べ物にならない程
質素で慎ましい生活を
してきたんだよね

嫌だっ…
やめろ…!

小さい時から
家の手伝いで畑の
雑草をむしったり

一生懸命
井戸の水を
汲んだり

牛の乳を
搾ったりして

ち
違う!

お嫁にいった時に
困らないように

料理や裁縫
なんかも
覚えたんだろう?

こんなの

こんなの
俺の記憶じゃ
……

ソフィアは
学校にも行って
ないから

文字だって自分の
名前くらいしか
書けないんだよね

ちっ違う!!
俺は王都の大学に
通って……

それでソフィアは
勉強も兼ねて王都へ
出稼ぎに来て
うちで使用人として
働くことになったんだ

専属の
家庭教師も……

あ……
あれ……?

昔のことが
思い出せなく
なって……!?

それにソフィアは
生まれも育ちも
田舎の村だから

言葉もすごく
訛っているん
だよ

おらは
訛ってなんか
ねえだ

あ……ああ!?

あああああっ!?

あ



あっ…

ル…ルーク様…？



自分が見下していた立場に生まれ変わった気分はどうだい？

農民娘のソフィアちゃん？



え？ あ

いや…おらがほんとのルーク様で貴族さまで…



…ち…違うだこんなの絶対…

何も違わないよ？君はルークではなくソフィア

貴族の青年ではなく農民の娘

生まれたときからずっとそうだったぞう？

んでねえ！



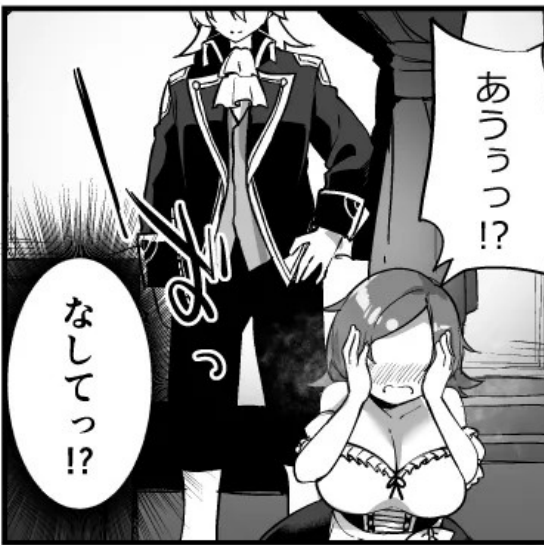
やれやれ

ソフィアは強情だね

おらがルーク様でこん国で一番の貴族さまで…！



…あ



あじうっ!?

なしてっ!?



ほんとはおらが
ルーク様のはず
だのに……

自分の顔を
見ただけで
なしてこんたに
ドキドキするだっ!?

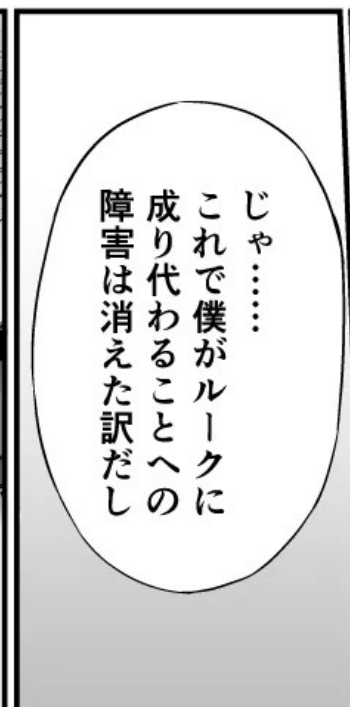
カアア

アアア



少しサービス
しちやおうか

あ……



じゃ……
これで僕がルークに
成り代わることへの
障害は消えた訳だし



はは

ソフィアちゃんには
貴族様の顔立ちには
眩しすぎたかな?

あ……
あ……

とん



はっ…
はううう
うっっ!!

おらっ…
ルーク様に口づけ
されてるっ!!

くち

くち

おらは男なのに…
男と口づけなんて
いやだのに

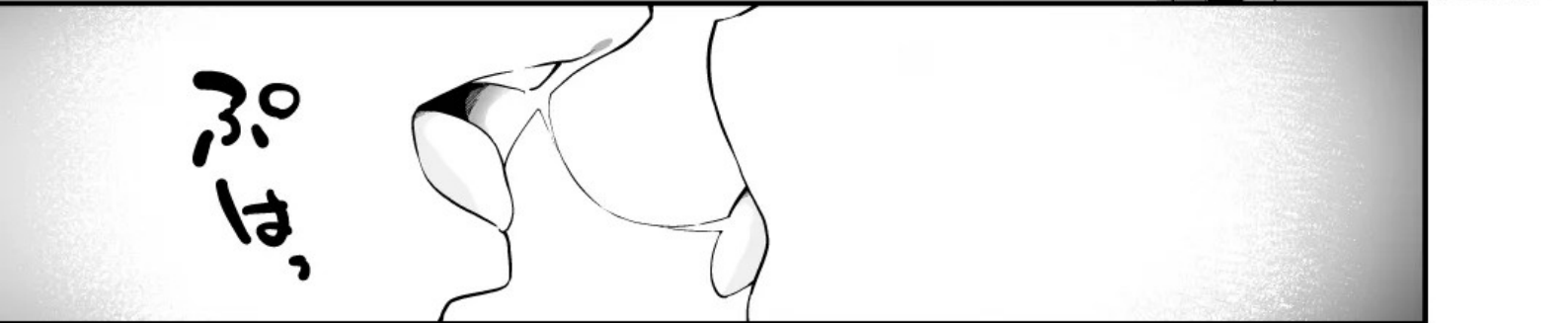
あややや

でも…しっ
心臓が爆発しそ
うなくらい高鳴って…

ん

ちゅ

ん



ふは、



胸が
キュンキュン
してえっ…

そうして
恥じらっている姿
完全に女の子
みたいだねえ



ルーク様にな…
名前呼ばれただけで
嬉しくなってるっ!

あうっ…

あうっ…



どうだい
ソフィア?

初めての
キスの味は

ちゅ

ちゅ



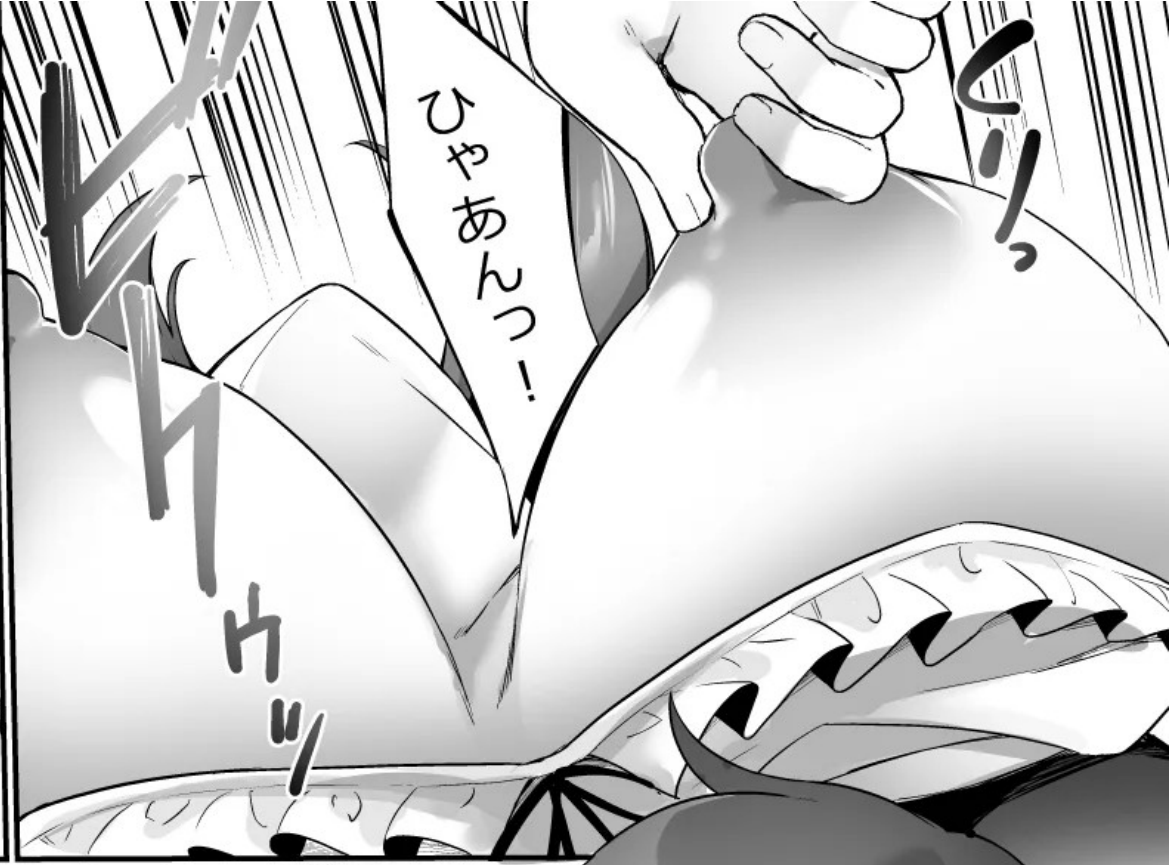
そんな
かわいい姿を
見せられると

こっちも滾って
きちゃうな





胸を触られた
ただなのに
先端がすごく
敏感になって……!



ひゃあんっー!

ハ
ハ
ハ



おら
ほんとは男
だのに

すごく気持ち
良さそうだね
ソフィアちゃん?

ううっ
こ…こんなの
おかしいだ

まじっ

ルーク様に胸を
触ってもらって
こんな感じて
いるなんてえ…

はじっ



フッフ
すっかり硬く
なってるね

しゅっ



抵抗しなきゃ
いけねえのに

んっ!

どうだい
気持ちいい
かい?

あうっ!

かつ…身体が
いうこときいて
くれねえだ

やあ…

あうっ

これじゃおら
ほんとに女の子
みたいに…

ふふふ

本当に
初めての女の子
みたいな反応だね

とっても
かわいいよ
ソフィア

もじ

さて…
そろそろこは
どうかな?



十分濡れてるね

んんん!!

くた

ひゃああっ!!

しゅっ

ひゃっ

おやうっ!!

じゅっ

めっ

やっ

やめっ

ゆ...指が
中にっ...!!



いっ

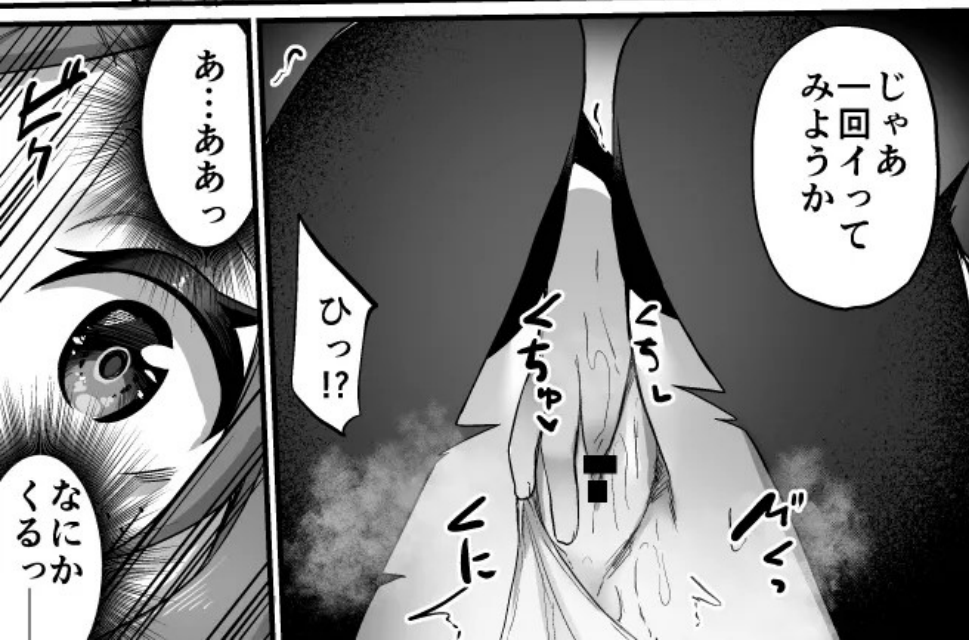
いわないで...

もう限界かな?



ふふ
すごい
吸い付きだね

僕の指を
キュウキュウと
締め上げてくる



じゃあ一回イって
みようか

あ...ああ

ひっ!!

なにか
くるっか



ぐっ

ぐっ



あっ…ううっ
頭の中が真っ白に…
今のが…

はっ

はっ♡

し…しかも
ルーク様に…

ふふっ
イっちゃったね
ソフィア

さて…そろそろ
僕も楽しませて
もらおうかな

はっ

う…うそ
あれがおらの
中に…!?

いくよ
受け入れて

いやだっ
そんなだもん
受け入れるだなんて
そんなの絶対に…

あっ

いやっ

ふえっ!?

嫌な…
はずだのに



や...やら...
おらは...あ



じゃあ
これからの生活
がんばってね
ソフィアちゃん

や...
あ...

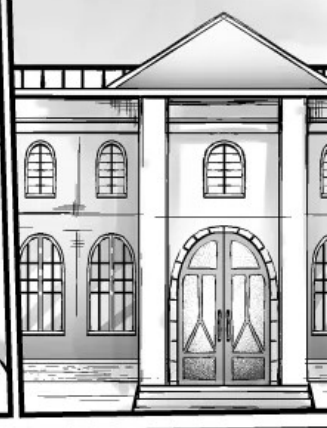


次の日から
使用人としての
生活が始まった

キュ

一番下っ端の使用人
として働かされるのは
屈辱的だとも思うけど
そうするしかなかった

そうしなければ
田舎に帰って貧しい
生活をするしか
なくなるからだ



キュッ



はあ...

ちよっと
ソフィア!



はっ
はいっ!

このあと
庭の手入れと夕飯の
支度もあるんだから
さっさと終わらせなさい
よね!

ポニリ

この屋敷の
主人であるおらが
こんな下働きをする
ことになるなんて...



もっ
申し訳ねえだ!

でも

トイレ掃除
まだ終わってない
じゃない!



カリッ

カリッ

あ
ルーク様!

えっ





やあ
ソフィア

あ…

何やってんの
ソフィア!
挨拶しなさい!

あっ

ぽっ

ははい!

掃除かい?
お疲れ様?

ホッ

ルーク様のために
働くことができ
とても嬉しいと思
う
気持ちも

っ…っ…
っ…!

…あつた

カアアアア



あーっ
あーっ
あーっ
あーっ

今日：ルーク様っ
おらの頭を
撫でてくれたっ！

本当は男
なのに：

くちゅ

んがんっ

あーっ

んがんっ
んがんっ
んがんっ

ルーク
さまあっ！

くちゅ

くちゅ

立場を奪った
人の事を想いながら
身体を慰めるなんて

ルークさまっ

ルーク様の手
大きくて
暖かくてっ……

そんなの
正気じゃない

あーっ

んがんっ

なのに……あの時の事
思い出すたびに
身体が火照って
頭の中……幸せいっぱい
になって……

ルークさまあっ
あーっ
あーっ

くちゅ

くちゅ

あーっ
あーっ
あーっ
あーっ



僕と一緒に
城の舞踏会に
出てくれないか

ふえ？

いやー…

君に成り代わって
しばらくはちゃんと
顔出してただけど

最近では面倒臭いし
そういう集まりには
行ってなかったんだ

でもそろそろ
出ないと
まずそうだし

貴族の
付き合いつてのも
大変なもんだね…

で…でも
なしておらが

僕が君を
連れて行きたい
からさ

あとこれは
当主としての
命令だから

わかったね？
ソフィア

はっ…はい…
わかりましただ…

!?

カチカチカチ



なんだか
落ち着かねな…



舞踏会…

昔は
散々出ていた
はずだとも…

どき

どき

とわ

とわ



ええっ
そうなの!?



ああ
ルーク様の家の
使用人らしいわよ

見たことない
顔だけど



ねえ
あの娘誰?

本当におらみたいな
立場のもんが入って
いいんだべか…

何で使用人なんかがこの場にいるのよ
図々しい

ルーク様が連れて来たんですって

…ソフィア?

あの子前は田舎で牛の乳を搾っていたそうよ

あら

通りで牛みたいなお身体をしていると思いましたわ!

見苦しく揺れてまったく品が無いたらありませんわ

しかも言葉なんて訛りが丸出しで聞いているこっちが恥ずかしくなっちゃう

いやあねえ

顔も芋臭いし髪の毛の色だっくすんだ煉瓦みたい

ルーク様だったら何を考えてあんな娘を…

土臭い匂いがこっちにまで流れてきそう

ううっ…

やっぱり今のおらにはこんなところで場違いなんだ…

君たち

今の言葉は
取り消して
もらいたいな

ル…ルーク
さま…？

彼女を侮辱する
言葉は許さない

あ…あら
ルーク様

私たち別に
侮辱など
とは…

そうかい

それならいい
けど

今後このソフィアへの
侮辱は僕自身への
侮辱だと思ってほしい

彼女は僕の妻に
なってもらおう予定の
女性なんだからね

えっ？



あのっ…
ルークさま

さっきのは
どういうこと
ですか!?

うん?
そのままの
意味だよ?

僕は君を妻に
するつもりだ

で…でもなして
…どうして
おらなんか



その結果が
これかと思うと
何だか虚しくなっ
ちゃって…

舞踏会に行かなく
なったのも
それが理由さ



彼女たちは
僕のことなんて
見ていない

彼女らが
見ていたのは
富や権力だけだ

…まあ
それは僕だって
人の事言えない
けど



この立場を得てから
僕は何人もの女性と
関係を持った

…でもすぐに
気が付いたんだ



富や権力ではなく
僕だけを
見てくれる



…でもふと
気が付いたんだ

純朴な女の子が
近くにいるって
ことに

えっ…

いつからか
君のことが気に
なってる……

働いている君の姿が
可愛く感じられて
しかたなかった

僕は君のことが
好きになって
いた

でっ……
でもっ！

おら農民の娘だし
貴族様と結婚なんて
とても……

関係ないよ

そもそも
君の存在を
そう変えたのは
僕だしね

絶対君のことを
幸せにしてみせる

その罪滅ぼし……
なんて言ったら
聞こえがいいけど

だから
君に妻になって
ほしいんだ

返事を

聞かせて
くれるかい？

ほんとに……
ずるいだよ
ルークさまは……



！



はいっ…

ソフィアを
ルーク様の嫁っこに
してください

…ありがとう
ソフィア

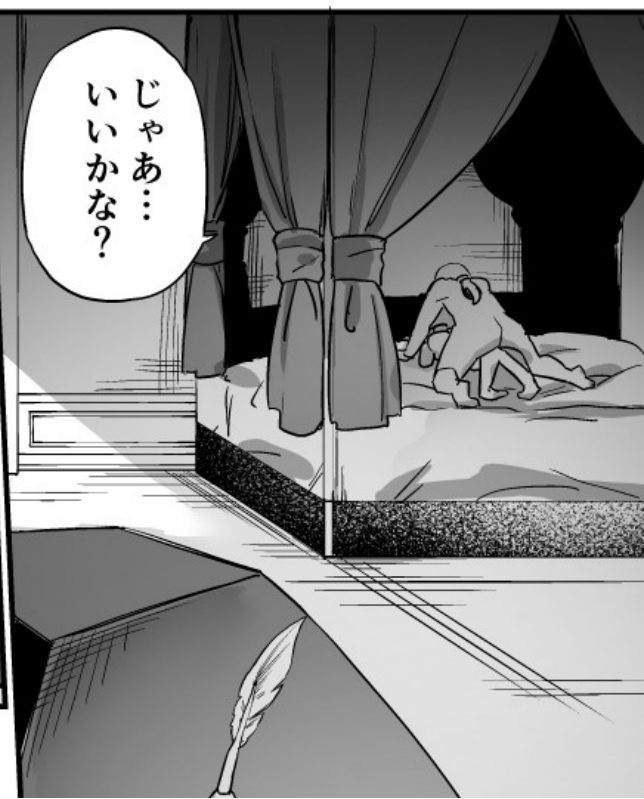


んっ

ちゅん…



んだ
ルーク様…



じゃあ…
いいかな？

かわいいよ
ソフィア

やっ…

やだ
ルークさまっ

そんなに
見ないで…

もい

もい

恥ずかしがる
ことなんて
ないさ

誰が何を言っても
僕は君の大きな
おっぱいが大好きだよ

あ…
あうう…

あっ

あっ

あっ



僕もアッ...射精すよー!

アッのあッ

アッのあッ



あははははは

あははははは

あはっ
ルークさまの
きりりゅっ…

あははは…♡

あははは

あははは

あははは

まったく…



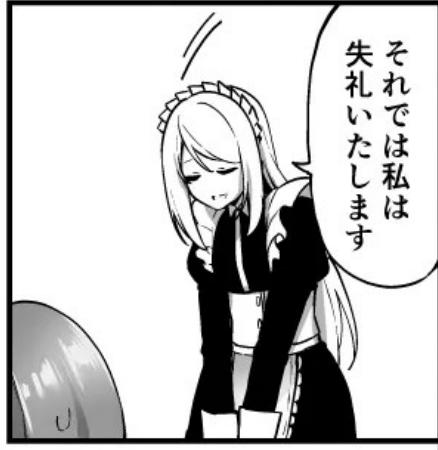
あのルーク様が
あなたと結婚
するなんてねえ
ムラでも信じられないわ



えへへへ…



あー
ソフィア
いるかい？



それでは私は
失礼いたします



ま
精々幸せに
なんなさいよ

お・く・さ・ま

なっ…！



何か
ご用だか？

天気が良いから
少し庭でも
歩かないかと思って
どうかな？

はい
ご一緒するだ

だんなさま♡



ソファア

魔法使いは青
ルーク(本)は緑



ルーク・ウィリアム・ハルフォード
(魔法使い)